

山口県文書館に寄贈

徳山藩再興に尽力した中山家の文書類四二九点公開

会員 栗崎 健

令和三年（二〇二二）一月、山口県文書館の研究員の方

にわざわざ周南市までお越しいただき、中山家に保管されていた江戸時代からの文書類を寄贈する事となった。

中山善右衛門は徳山藩が改易になったとき、再興最大功労者の奈古屋里人の手足となり、徳山藩再興の陰の立役者といわれた人である。（郷土史研究第四二号『徳山藩再興に尽力した陰の功労者』をご参照下さい。）

その文書類をいち早く整理して頂いた。全く頭の下がる思いである。寄贈者中山義文氏も感激され、今回、お手伝いしたものととして安堵し、感謝に堪えない。

目録にある四二九点の史料の一部を紹介する。

一．中山家

（1）系譜・由緒

○古来より家柄御仕成之覚 文政二年「二八一九」四月

○江田丁商人中山家由緒覚 享和三年「一八〇三」

○周防福川本陣福田家由緒書

○覚（中山宗三郎へ永代米下賜仰付につき）

○覚（米三十俵献上願出奇特につき）

（2）経営

○永代売渡申酒場同道具蔵長屋之事

○手形（江戸御参勤御供小遣銀等借用につき）藩↓

○証文（若殿様江戸御参府御用意銀御預りにつき）藩↓

○覚（江戸御屋鋪御火災につき御当用銀差出の事）藩↓

○手形（御部屋御台所御用銀借用につき）藩↓

○借状（旦那要用につき銀・八十文錢）↓古屋物左衛門

○勘弁講手形（古屋惣左衛門取立勘弁講取当につき）

○連判状（米銀・酒借用につき）宝曆十四年組外八名

○永代売渡シ申家屋敷之事 寺町竹田↓松村屋新六

(3) 家政

○易一代之運季 元文五年「二七四〇」九月大吉日

○『筑紫紀行日記（寛政六年）』『讚州紀行』

○諭書 明治四年「二八七二」八月従三位（毛利）元徳

○嘉永七甲寅十一月四日 諸国大地震大津波凶

(4) 什書

○「進上目録」（太刀一腰・馬一疋）毛利元丸元賢

○徳川綱吉御内書（重陽之祝儀につき返礼）

（元禄三年「二六九〇」）九月七日↓毛利主計（元次）

(5) 徳山藩再興関係

○書付一通 徳山藩断絶の悲記 中山家五代中山新六筆

○覚書（徳山藩再興関係）

○「沙汰書」（飛騨守様御免、百次郎様江御相続につき

徳山御領地百姓中へ申聞せの事）享保四年

○「沙汰書写」（毛利飛騨守殿御預ケ御免につき）

○口上覚（百次郎様気毒千万につき）御請状之事

○奈古屋里人書状（蟄居之申渡シ御座候様ニ承申す）

○奈古屋里人書状（木綿・茶受取につき礼）

(6) 書状

○福間書状（一樽御送りにつき）

○覚（中山伴七母長寿之由につき御賞美）

二. 近世諸役

○徳山領諸村雲蚊虫枯大御損亡ニ付御家中江被仰出候

○筑前守様・薩州御姫様同日御通路付鳥羽玄蕃様奥様

御見物トシテ御出ニ付馳走一卷

○御用状（浄岸院様御廻棺当町御止宿之時、夜着ふと

ん指出の事）

○御用状（良寿院様御百回忌）（本源院様十三回忌）

三. 近代諸役

○演説以御願申上候事（長崎在留につき）明治四年

(中山家文書 鑑)

周南市 中山家文書目録

1 調査の経緯

令和三年(二〇二一)に子孫から寄贈された。

2 中山家について

中山家は、戦国期の永祿末年に江良氏(陶氏重臣で、毛利氏服属後は寄親を務めた家)の家臣として、筑前国立花城(現、福岡県福岡市・糟屋郡新宮町)に籠城していたことが確認できる。江戸時代は帰農して周防国都濃郡大向(当初萩藩領。元和七年(一六二一)以降は徳山藩領・現、周南市)に居住していたが、延宝年間ごろに徳山の幸丁(往還道沿い)へ移住して町人となった。のち町年寄を務め、蔵本付格となった。中山新六・伴七(善右衛門)父子は、正徳・享保年間に徳山藩再興運動の中心人物であった奈古屋里人と深くかわり、再興運動に奔走した。同家の屋号は、最初松村屋で、のち古屋と改

めた。家業としては、酒造業を営んだことが知られる。中山宗三郎が当主を継いだ幕末ごろは困窮し、萩本藩領へ活動の場を求めたり、明治元年(一八六八)には長崎府藩事に就任した伊藤博文に従って長崎で活動したりした(No.二九七(七一の三一))。のち中山家は富田古市(現、周南市)へ移住し、中山東一郎が昭和戦前期に南陽町長を務めている。

3 数量

二九九件四二九点(請求番号一〜二九九)

4 年代

天和二年(一六八二)〜平成五年(一九九三)

5 文書の内容

中山家が(1)「家」として活動した過程で作成・授受された文書群、(2)江戸時代に町年寄などとして活動したことに関わって作成・授受された文書群、(3)

近代に公的な役職に就任したことに関わって作成・授受された文書群、に大別される。数量的には(1)に分類される文書が大部分を占めている。(1)には、系譜・由緒や酒造に関わる文書のほかに、中山伴七(古屋善右衛門)が奔走した徳山藩再興運動に関わる文書が含まれているのが特色。また、入手した経緯は不明ながら、徳山藩主宛での徳川綱吉御内書も伝わる(No.一八〇)。(3)には、明治五年(一八七二)に取りまとめた旧徳山藩領の地方(町方)の有力者から差し出させた賞美や勤功に関する書類がまとまって残っており、彼らの家筋を知ろうえで有用。

《キーワード》町年寄(徳山藩領)／徳山藩再興／町長

6 参考文献

▼『山口県内所在史料目録』第六集

(山口県文書館 一九七九年)

▼『徳山市史』上巻(徳山市 一九八四年)

▼『南陽町誌』(南陽町 一九六四年)

▼神本正律「徳山城下町の町人中山伴七とその家歴」

(『徳山地方郷土史研究』七号 一九八六年)

▼栗崎 健「徳山藩再興に尽力した陰の功労者 中山伴七とその一族」(『徳山地方郷土史研究』四二号 二〇二一年)

7 関連史料

(1)「苗字御免御仕成筋古来より持伝候物等此度御尋ニ付御案文之通り書印指出申候控」(山口県文書館蔵 請求番号…徳山毛利家文庫 寺社・町方二二八)

(2)「徳山町人所持之御判物写」(山口県文書館蔵 請求番号…毛利家文庫二二諸臣一四二〈複写資料諸臣 五三五〉)

(山口県文書館「周南市 中山家文書目録」鑑を全文引用)